

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 日出 開催概要

[開催日：令和元年7月1日（月）]

[学校訪問①] 大分県立別府支援学校鶴見校（別府発達医療センター施設見学を含む）

[訪 問 者] 大分県教育委員会（教育委員、教育次長 他）

大分県立別府支援学校鶴見校は、肢体不自由児対象の特別支援学校で、別府支援学校3校（本校・鶴見校・石垣原校）として創立10周年を迎える学校です。

別府発達医療センターとの併設により、センターのスタッフの皆さんと連携しながら、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を実践しています。

当日は、肢体不自由教育の充実と防災・安全教育の充実を重点目標とした、個別の指導計画の充実やICT機器の活用や学校生活における緊急時の対応への環境作り等の取組について紹介がありました。



[学校訪問②] 日出町立大神小学校

[訪 問 者] 大分県教育委員会（教育委員、教育次長 他）

日出町教育委員会（堀教育長 他）

日出町立大神小学校は、隣接する大神中学校や地域との交流が盛んであり、「めざす大神の子ども像」を共有し、9年間を見据え、子どもの成長に合った具体的な取組を連携しながら進めています。

今年度は、理科、英語、音楽の3教科で大神中学校の教員による乗り入れ授業を実施しており、当日は、6年生の授業にALTとともに大神中学校の教員が入って外国語の授業を行う姿が見られました。

また意見交換では、学力向上の取組として3、4、5年生を対象とした習熟の程度に応じた算数の指導の様子も紹介されました。



[学校訪問③] 日出町立大神中学校

[訪 問 者] 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、教育次長 他）

日出町教育委員会（堀教育長 他）

日出町立大神中学校は、学校の重点目標の達成に向けて目指す生徒像を具体的に設定し、教育活動を通して知・徳・体バランスのよい子どもの育成に向けて全教職員で取り組んでいます。

中学校への円滑な接続を図ることができる1小1中の利点を生かして、大神小学校と連携して9年間を見据えた一貫した取組が進められています。

当日の授業参観では、積極的に小グループによる対話的学習を取り入れるなど、すべての子どもたちがしっかりと発言ができる工夫や、地域に根ざした題材を取り入れ、生徒が自らの課題として考えることができるよう工夫された授業が行われていました。



[意見交換会テーマ] 「芯の通った学校組織」を基盤とした大分県版「チーム学校」の実現

(1) 小中連携教育の推進について

(2) 学校・家庭・地域が協働した学校づくりについて

[出席者] 学校訪問③、教育委員、日出町立小中学校長（小学校5校、中学校2校）、学校支援センター所長

意見交換会では、県の施策の説明、町教委からテーマに関する取組状況の説明の後、それぞれのテーマについて各学校長・学校支援センター所長から提示された「肝」について説明、意見交換を行いました。

### (1) 小中連携教育の推進について

#### ▶ 日出町の小中連携教育に係る取組

- ① 乗り入れ指導の実施
- ② 合同の行事等の実施
- ③ 学力調査等の分析

#### ▶ 各学校長・学校支援センター所長が考える小中連携教育の「肝」

「ハードル」「持続可能な連携」「共有化」「お互いを知る」「教職員どうしの相互理解」「連携意識の高揚」「共通のビジョン」「風」。教職員が「9年間でどんな子どもを育てるか」を共通理解することが大事。小中連携、教職員どうしの連携の視点が必要。

#### 【主な意見】

- ▶ 1小1中の大神中と、4つの小学校が1つの中学校に進学する日出中のそれぞれのよさを生かして子どもを育ててほしい。また「高1ギャップ」にならないような取組が進められるといい。
- ▶ 中学1年生は新しい環境に慣れるまで大変だが、子どもの少しの変化に先生が気づいてくれる、地域の方との交流が子どもの支えになっている。
- ▶ 高校との接続も含めて、管理職の先生を中心に今までやってきたことを学校間・教職員間に浸透させ、引き継いでいくことが明るい将来につながると感じた。



限られた時間、活発な議論を(工藤県教育長)



教職員の働きがいのある学校づくりを(堀町教育長)

### (2) 学校・家庭・地域が協働した学校づくりについて

#### ▶ 日出町の学校・家庭・地域が協働した学校づくりに係る取組

- ① 学校運営協議会
- ② 「協育」ネットワーク
- ③ 豊岡小SA(スクール・アシスタント)の取組

#### ▶ 各学校長・学校支援センター所長が考える学校・家庭・地域の協働による学校づくりの「肝」

「参加」「ギブ アンド テイク」「管理職のリーダーシップ」「周知」「継続は力」「継続」「コーディネート役」「教職員の意識(感謝の気持ち)」。時間をかけて継続・発展してきた。

#### 【主な意見】

- ▶ 地域や大人からいつも何かしてもらおうということではなく、中学生として、小学生として地域との連携で何ができるだろうかと、「育つ・育てられる関係」と同時に「育ち合う社会」を形成していく必要がある。
- ▶ 高校も地域に密着した活動を進めてきており、高校までの12年間を見据えて日出町全体の教育を一貫して、どんな子どもを育てるかということを考えていけるといい。
- ▶ 小中連携をやって何をやるのか、何を成果とみるのかをはっきりしておかないといけない。小中連携で最も重要なことは、一人一人の子どもが9年間でどんな育ちをしていったかを把握すること。

#### 【意見交換を終えて(工藤教育長から)】

○学校間の連携については、大変工夫をしてやっていただいているということを改めて知らせていただいた。教育委員の皆さんがおっしゃっていました、何のために連携をするのか、というときに、やはり子どもたち一人一人をしっかりとつないでいく、子どもをどう結び続けるかということ念頭に置いて連携を進めて行く必要がある。

○地域との連携については、日出町は早くからコミュニティスクールを導入していただいた。教育委員さんから、ぜひ先生は先生の仕事をして、これがうまく先生のためになって子どもたちにつながっていけばいいという力強いお言葉をいただいた。1つはそれが目的でもあり、また学校もそういうことで活性化をして地域に力を返していくということも大事だと感じている。日出町の子どものためにもみんなで一緒になって頑張ってもらいたい。

